

伊香保温泉の旅 2024



2024年9月

旅のチカラ研究所 植木圭二

私は群馬県には古墳が多くあることを最近知った。そこで友人と群馬県の伊香保温泉に泊まって古墳巡りをする旅をしてきた。

■旧石器時代から

私は群馬県桐生市で生まれ育った。

何と、私の実家の跡地から古代の住居跡が出てきた。そのため教育委員会の調査が入ったこともあり、群馬県には古くから人が住んでいたことが肌身で感じていた。



【私の実家の跡地にあった古代の住居跡】

その私が生まれる前の 1946 年、桐生市近郊の岩宿において日本の古代史を揺るがす大発見があった。それまで日本には旧石器時代は存在しないという通説が覆った。

発見者の相沢忠洋は独学で考古学を勉強して、自転車で納豆を売り商売をすることによって発見に至った。そのため当時の小中学生たちに対しては発見者の偉人伝の方が強調されていたような気がする。

さて、旧石器時代の話が出てきたので、大昔の日本の時代区分について整理してみたい。

日本の旧石器時代は約 3 万 8000 年前～約 1 万 7000 年前になる。そして土器の使用が始まり縄文時代になり、紀元前 300 年頃まで続く。その後は農耕が始まり弥生時代になって、弥生時代は紀元後 3 世紀頃まで続く。その次は古墳時代と呼ばれ、この時代に畿内（奈良・大阪・京都）の大和朝廷が勢力を持ち始める。そして 592 年に飛鳥（現在の奈良県明日香村）に飛鳥京が置かれ飛鳥時代になり、710 年から奈良時代、794 年から平安時代へと続いていく。

余談になるが、今年の9月、文化庁は飛鳥京を世界遺産に推薦するというニュースが飛び込んできた。早ければ2026年7月に世界遺産に登録される。尚、飛鳥京については旅行記「奈良飛鳥の旅2019」に詳しく書いている。

■群馬は古墳大国

時代区分の中で、古墳時代は3世紀頃から592年までになるが、古墳そのものはそれ以降7世紀頃まで造られた。さらに古墳は畿内だけでなく、関東でも造られた。

関東でも群馬県に特に古墳が多い。実は群馬県出身の私にしても、群馬に古墳が多いことを最近になって知った。大和朝廷の東方侵略により畿内の文化が関東でも広まった結果だが、いろいろ調べていたらとんでもないことが分かった。

それは群馬県の中央西に位置する榛名山の噴火が5世紀から6世紀に活発化して、麓の関東平野北部に火山灰が降り注ぎ、集落や古墳を覆った。その古墳が近年になって発掘されたというから、古墳は手つかずに残っていたらしい。

この話はイタリアのポンペイに似ている。ポンペイは紀元後79年8月24日午後1時頃にポスビオ火山が噴火して火山灰が街を飲み込んだ。そのためポンペイは19世紀に発掘されるまで街丸ごとタイムカプセルに入っていたことになる。

■保渡田古墳群

9月の上旬、私と友人は高崎市内にある保渡田古墳群にやって来た。

ここには「八幡塚古墳」と「井出二子山古墳」という大きな古墳があり、どちらも墳丘の長さが100m以上ある立派な前方後円墳で、周濠（外堀）を入れるとかなり大きい。ただし大阪にある有名な仁徳天皇陵（今は大仙陵古墳と呼ぶのが一般的）の墳丘は525mもあり、到底及ばない。何しろ仁徳天皇陵は世界最大の墓で、世界遺産にも登録されている。

八幡塚古墳は整備されており、崩れないように石で覆われている。榛名山の噴火の火山灰によって遺構がそのまま残っており、周囲に置かれていた埴輪や土器もそのまま大量に出土したので、埴輪などを周りに置いて古墳完成当時を再現している。まあ、違う見方をすると観光化されていると言っても良いだろう。



【八幡塚古墳全景】



【八幡塚古墳 墳丘の後円から前方を見る】

玄室も見学できるので、入ってみると、無残にも壊された石棺だけが残っている。どうやら大昔に玄室だけ荒らされ盗掘されていたらしい。

私はポンペイを期待してやってきたが、残念ながらポンペイにはならなかったようだ。

ポンペイは3日間にわたり火山灰が降り続け、街全体に8mもの火山灰が積もった。保渡田古墳群も4~6m積もったというが、その差なのか。

井出二子山古墳の方は低木に覆われた状態で残しており、小高い丘のように見える。階段で墳丘の頂上に登ることができる。墳丘の周囲にはコスモスが植えられているからもう少しすれば見頃になるに違いない。



【井出二子山古墳】

■ 洞窟観音

高崎市は大きな白衣観音が有名だが、その近くに洞窟観音という珍しい洞窟がある。

400mの洞窟に石彫の観音像が39体あり、それら観音像は高橋楽山が生涯をかけて彫った作品という。観音像も素晴らしいが、私が興味を持ったのは洞窟で、重機を使わずに全て人間が掘ったものだという。洞窟を掘った人は山田徳蔵という人物だと説明看板に書かれている。

私は彼が1人で掘ったと思い、受付の人に聞くと、人を雇って掘ったということだ。それはそうだろう、彼は商いで財を成したので、自分で洞窟を掘っていたら商いができない。

しかしながら彼はその財を全て投入してこの洞窟を掘った。そしてその目的が己の私欲ではなく、地元の振興のためというから恐れ入ってしまう。

1919年に掘り始めて、彼が亡くなった1964年まで続けられた。当初の計画は800mだったが、最終的には半分の400mになった。



【洞窟観音の内部の様子】

実際に洞窟に入ると、外気温は30℃を軽く超えているが、洞窟内は年間を通じておよそ17℃に保たれているというからありがたい。それにしても400mは意外に長く、重機を使わずに人間が掘ったということにただただ感心するばかりだ。

■自動販売機で昼食

群馬県を紹介するテレビ番組で、昭和を感じる古い自動販売機が何台も置かれていて、その自動販売機から出てくる熱いうどんを食べるシーンを良く見かける。

本日の昼食はその自動販売機のうどんを食べようと、「ゲームコルソ高崎店」にやってきた。ここはゲームセンターに併設して自動販売機が10台くらい置いてある。

早速うどんの自動販売機を見つけ、現金350円を投入する。待つこと30秒、熱々のかき揚げうどんが発泡スチロール容器に入って出てきた。



【うどんの自動販売機】



【自動販売機から出てきたうどん】

日清食品がカップヌードルを発売したのが1971年、このうどんの自動販売機はその少し前にできたようだ。だからカップ麺とは作り方が全く違う。カップ麺は3分かかるのに、どうしてこんなに早いのだだろうかと疑問に思いながら食べていると、その答えはすぐに判明する。

私たちが食べ始めると、店のスタッフが商品を補充やって来た。発泡スチロール容器に入った茹でうどんとかき揚げをその容器ごと補充している。つまり 30 秒という時間は茹でた麺に熱湯とスープを注ぐ時間だった。乾麺でないので長期保存できないから頻繁に商品を補充する必要があり、私たちが買ったのを見て補充に来たのだろう。

隣にあったトーストサンドの自動販売機も面白い。アルミホイルで包んだハムとチーズのトーストサンドを、コインが投入されると販売機の中のオーブンで焼くという仕組みになっている。そのために時間がかかるが、熱々のものが出てくるので取り出し口付近には耐熱の手袋が置いてある。



【ホットサンドの自動販売機など】



【自動販売機から出てきたホットサンド】

■ 観音山古墳

高崎市の住宅地にある「観音山古墳」を訪れる。古墳の前に小さな管理事務所があって、管理人らしき年配のおじさんがいる。

「古墳を見せてください」と私が声を掛けると、彼は「ちょっと待っていて」と言いながら外に出てきた。私たちだけのためにわざわざ炎天下に出て案内してくれるらしい。

古墳の墳丘の長さは 97m の前方後円墳で、周濠も残っておりかなり大きく感じる。墳丘の木々や草は全て綺麗に刈られており、できたばかりの古墳を感じることができる。さらに素晴らしいことに玄室がそのまま残っている。つまり盗掘されていない。



【観音山古墳】

管理人はひと通りの説明を終えて、玄室の扉の施錠を外して私たちを招きいれてくれた。

玄室の壁は長方形の石を埋め込んだもので、整然と積まれている。天井は3つの大きな石で組まれており、その重さは手前から12トン、16トン、22トンもある。

私はこんなに整然とした玄室を今まで見たことがない。奈良の飛鳥に「石舞台古墳」があるが、あの古墳も出来た時はこんな様子だったのだろう。同行の友人は少し涙ぐんでいるから相当感動している。



【観音山古墳の玄室】

この観音山古墳は6世紀後半、つまり550年～600年に造られたと管理人が教えてくれた。

私は榛名山の噴火について調べ始める。便利なことに全国の火山噴火の情報は気象庁のHPに載っており、榛名山の最後の噴火は525年～550年なので、古墳は噴火の後に造られた。

なぜ、榛名山の噴火で火山灰を被った保渡田古墳群が盗掘されたのに、噴火の後にできたこの観音山古墳は盗掘されなかったのか。

管理人の話では、この一帯は昔から桑畑が広がり、古墳はその中の小高い山だった。それが古墳だということは語り継がれていたらしいが、桑畑を荒らすことまではしなかった。何故ならば桑は蚕の餌で、養蚕の盛んな地域なので蚕は“お蚕様”と呼ばれており、古墳よりもお蚕様を優先したのだろう。お蚕様がもたらす富があるので、墓荒らしまでする必要がなかったのかもしれない。

しかし昭和になって古墳を平地にして全部を桑畑にしてしまう計画が持ち上がった。古墳を壊す前に調査してみようとなつて、1968年に調査したら、未盗掘の横穴式石室から膨大な量の埋葬品が出てきたという。これもまたお蚕様さまの恩恵かもしれない。

中にあった埋葬品は、近くの群馬県立歴史博物館に移されたという。その全てが国宝に指定されたというから、この古墳の歴史的価値が理解できる。

ついでに書くと、畿内の古墳の多くは天皇家の墓なので発掘には宮内庁の許可が必要で、実際のところ許可が降りず発掘調査ができない。ところが群馬県古墳は天皇家の古墳ではないから発掘調査が可能で、考古学上のメリットが大きい。

■伊香保温泉に泊まる

今宵は伊香保温泉に泊まる。私にとって伊香保温泉と言えば、温泉偽装事件を思い出す。

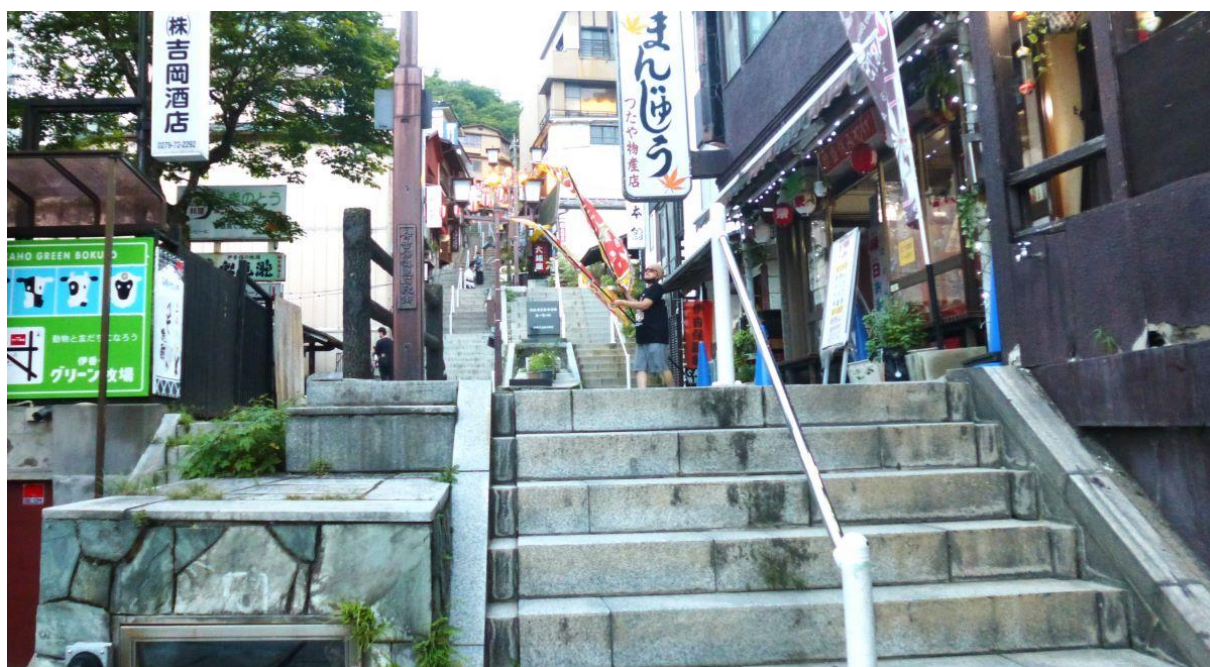
2004年、長野県の白骨温泉で入浴剤を入れて着色していることを週刊誌がすっぱ抜いた。白骨温泉は乳白色の湯で有名だが、徐々に白濁が薄くなる問題が一部の施設で発生し、入浴剤による着色を始めた。入浴剤の利用は当時の温泉法には抵触しないが、人気温泉地だったことで大きく取り上げられた。

その影響で全国各地の温泉で調査が始まった。そして伊香保温泉の一部旅館でも水道水を沸かしているにもかかわらず温泉と称していたことが発覚した。

伊香保温泉の源泉は茶色いので、黄金（こがね）の湯と呼ばれている。しかしながら黄金の湯を利用できる施設は限られているうえに旅館数が増加し給湯量が不足してきたため、1996年に無色透明な白銀（しろがね）の湯が掘られた。しかしこれも供給量が不足し、湯を引けなくなった宿が多くなり、水道水を沸かす温泉偽装に至った。

ついでに書くと、黄金の湯の茶色をイメージしたのが温泉饅頭で、伊香保温泉が発祥になる。考案したのは「勝月堂」で、伊香保温泉のシンボルである石段の頂上にある伊香保神社の近くに店を構えている。

その石段は365段あり、石段の下を黄金の湯の源泉が流れている。周囲の旅館はそこから源泉を引いている。



【伊香保温泉の石段 石段左に温泉の流れる取水口がある】

今宵、私たちが泊まる「伊香保グランドホテル」は、現在は伊東園ホテルズになっているが、かつての老舗旅館なので、黄金の湯が満喫できる。

私は榛名山がもたらした黄金の湯に浸かり、その榛名山が噴火していた当時を思い浮かべながら秋の夜長を楽しんだ。

■榛名山

翌朝は榛名山を訪れる。実は榛名山というのはいくつかの山の総称で、一般的に榛名山の標高は 1449m と言われているが、これは榛名山の外輪山の中で一番高い掃部ヶ岳（かもんがたけ）の標高になる。

その外輪山に囲まれたカルデラ湖の榛名湖は 1085m になっている。その湖畔から見える山が富士山に似ていることから榛名富士と呼ばれている。

私にとって榛名山は特別の思い出がある。それは自分で計画した人生最初の一泊旅行がこの榛名山だった。

高校 1 年生の夏休みに入る少し前から友人たちと何処かに旅行に行こうという話が持ち上がっていて、その打ち合わせを何度も重ねていた。その結果、自転車で榛名山の榛名湖畔を目指すサイクリング&キャンプをすることになった。

小さな三角テントを共同で購入した。といっても 1000 円もしないテントなので、当時としても格安で使い捨てに近いものだった。もちろん寝袋もテントマットも持っておらず、キャンプのやり方も知らない全くの素人 3 人が榛名湖を目指した。

行程は約 60km だが、標高差は約 1000m もある。若いとはいえ自転車で山登りは初めてで榛名山の急な坂道はかなりきつく、ほとんど自転車に乗らずに押して歩いた。

夕食は当時お弁当缶詰というものがあって、それを持って行った。これは今のレトルト食品ではなくて缶詰を一定時間火にかける必要があり、そのままでは食べられないものだった。しかし持参した固形燃料が途中で終わってしまい、キャンプの術も何も知らない私たちは焚火をすることもせずにそのまま缶詰を開けたが、固くて食べるのを断念した。そのために夕食は“かっぱえびせん”で飢えをしのぐことになった。

さらに夜になったら、山岳地域なので夕立による突然の雨に襲われた。雨の心配がある時は雨水が入り込まないようにテントの周りに溝を掘るのだが、そんなことも知らなかった。そのためテントに水が入ってきてとんでもないことになった。それでもテントの中央部分は水没を免れたので、足を曲げて上を向いて頭を高くして眠った。

私の人生最初の旅、そして最初のキャンプは実に苦いものになった。

あれから既に 50 年以上経ち、初々しい高校生は白髪の前期高齢者になったが、榛名山は悠然とそびえ立ち榛名湖は水を蓄えている。

そしてこの水の一部が山体を抜けて伊香保の湯になっているのだろう。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合っって評価項目を5段階で評価し、委員会として評価値を算出する。ただし今回は私1人の意見で決定した。

評価項目は泉質、風呂、料理、コスパ、サービス、建物・部屋、立地環境の7項目で、平均値を総合点としている。温泉は泉質と風呂で分けており、立地環境はかつて秘湯度という項目だったが、都市型の温泉もあるのでロケーションや景色を総じて評価するようにした。

評価基準は5段階としてその定義は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

伊香保グランドホテルは泉質4、風呂4、料理3、コスパ5、サービス4、建物・部屋4、立地環境4、総合点4.00になった。

湧出温度は未調査、pH6.4、泉質はカルシウム・ナトリウム-硫酸塩・炭酸水素塩・塩化物温泉（中性低張性温泉）だった。

■旅の記録

実施は2024年9月5（木）～6日（金）の1泊2日の旅の行程を示す。尚、実際の行程と本文の行程が異なる部分があるが、以下の行程が正しい。

- ・1日目 8時に自宅を出て11時に「観音山古墳」、「不動山古墳」、「洞窟観音」を見学、「ゲームコルソ高崎店」で昼食、保渡田古墳群の「のかみつけの里博物館」、「八幡塚古墳」、「井出二子山古墳」見学、「伊香保グランドホテル」チェックイン
伊香保温泉石段街を散策、宿に戻り夕食
- ・2日目 9時に宿を出て榛名湖を訪れ、12時に高崎駅に戻り解散
以降は別の組織の合宿に合流したので割愛する。

費用は総合計で約1万5千円、詳細を以下に示す。

伊香保グランドホテル	8565円（2食付、入湯税含む）
交通費	約5000円（高速道路代とガソリン代の1/2）
入場料	900円（洞窟観音入場料、他の古墳は無料）
昼食・その他	約1000円